



## 第22回九州ミッドシニア選手権競技 第37回グランドシニア選手権競技

競技報告 (2015/ 9.30-10.1)

写真と記事 : M. Kikutake

### Gシニアは**大川重信** (小郡) が逆転初優勝

史上初のシニア関係九州選手権3冠達成

### Mシニアは**近藤正耿** (北九州) が逆転での初V



ミッド (M) シニア、グランド (G) シニアの両九州選手権は9月30日、10月1日の2日間、熊本県南阿蘇村の阿蘇東急ゴルフクラブ(ミッド6571㍿、グランド6279㍿、パー72)で行われ、注目のGシニア選手権は通算6オーバー、150で回った70歳の大川重信(小郡)が初優勝した。

大川は過去、シニア選手権(2003年)、ミッドシニア選手権(2010、2013年)も制しており、史上初めてシニア関係の九州選手権で3冠を達成した。



Mシニア選手権は通算3オーバー、147で65歳、近藤正耿(北九州)が初日の3位タイから逆転で初優勝した。

(写真はMシニアの近藤正耿㊦と、Gシニアの大川重信㊧両選手)

### Mシニア23人、Gシニア9人が日本選手権出場資格を獲得

この試合の結果、第22回日本ミッドシニア選手権(11月9~11日・広島県、広島GC西条)へは20位タイまでの22人と、23位タイの3人のうちマッチングスコアカード方式で選ばれた1人の計23人が、第22回日本グランドシニア選手権(11月12~13日・広島県グリーンパースGC)へは8位タイまでの9人が出場権を得た。

### 通算6オーバー、150

### Gシニアの大川は5打差を逆転

### 地元の皆吉寿紀(阿蘇東急)は1打差で連覇ならず

大会は2日間とも雨に見舞われ、最終日の決勝ラウンド(2R)は早朝の激しい雨でティーオフを30分遅らせたものの、無事に日程を消化した。

そんな中、70歳以上(今年12月末現在)が出場資格のGシニアには各県地区予選を通過した72人(欠場4人)が出場。大川は初日、7ボギー(2バーディー)で首位に5打差の4位タイ発進。イーブンパー、72で単独首位に立ったのは71歳の高野忠行(湯布院)で、1打差の2位に連覇を目指した地元の75歳、皆吉寿紀(阿蘇東急)、さらに1打差で田中日本明(麻生飯塚、72歳)がつけた。

11オーバー、56位タイまでの61人が進出した最終日は、雨に加えて風も強まり、スコアを崩す選手が続出する中で大川は

3バーディー、4ボギーとベストスコアの73をマークして上位陣を逆転。大川に4打差をつけての発進だった皆吉はバーディーなしの6ボギー、78とスコアを落とし、1打差で涙をのんだ。



グランドシニア初出場で優勝

## 「自分との戦いだった」シニア競技3冠達成の大川重信



(C)GUK

「とにかく苦しい試合だった」とホールアウトした大川重信はこう口にした。というのも、年齢別に分けられたシニア関係3選手権のうち、既にシニア（55歳以上）、ミッドシニア（65歳以上）のタイトルを取っており、70歳になってのこのグランドシニアが3冠目の挑戦だったからだ。

早くから、だれも達成していない「シニア3冠」を目標にして挑んできた大川。加齢とともに体力が落ち、不利になるだけに、70歳以上が参加資格のGシニア選手権は、大川にとってルーキーイヤーの今回が最大のねらい目でもあった。

第1ラウンド。誤算が生じた。この人には珍しい7ボギー（2バーディー）とボギーの山を築き、首位とは5打差の発進。しかし、決勝ラウンドは、「やはり、大川が来たか」という見事なフィニッシュを見せた。

雨に加えて、屋ごろからは風も強まり、スコアを崩す選手が続出。そんな中であって前半2バーディー、3ボギーの37として先行する高野、皆吉らとの差を縮めた。そして後半、高野らがスコアを落とす中で手堅く1バーディー、1ボギーで回った。

相手は前半で3打差をつけられていた皆吉に絞られていたが、その皆吉があるうことか、10番ボギーのあと上り3ホールでまさかの3連続ボギー。大川の逆転勝利が成ったのだ。

「パットがあまりにも悪かった。（風が出た）後半はショットも乱れて…」と敗因を口にする皆吉。初日は出遅れたものの、「大川が来るだろうということは予想していた」という。スコアの差、お互いの力量、何よりも阿蘇東急をホームコースとする地の利があったが、「自分の庭のようなもの、気持ちが空回りしてしまった」と連覇を逃してほぞをかんだ皆吉だ。

一方、「後半は風の中でいいゴルフができた」と言う大川。優勝ラインの予測から、難しい16番からの3ホールをパープレーで上がれば、「最悪でもプレーオフに」という計算を立て、さらには、「勝たないといけない」という自身のプレッシャーにも負けず、冷静に実行して見せた。

積年の酷使で昨年、背筋を痛め、肩が十分に振り切れなくなった。今後は、「グランドシニアに腰を落ち着きたい」というが、何よりも身体の整備が大きな課題だろう。

表彰式のスピーチで「この優勝は今までで一番苦しかった」と大川だったが、まだ、仕事は残っている。次は、「日本選手権3冠」だ。2006年の日本シニア選手権、2011年の日本ミッドシニア選手権。残る日本グランドシニア選手権を制すれば前人未到の日本選手権3冠達成となる。まだまだ大川のモチベーションも高いのが心強かった。

## 通算3オーバー、147

### Mシニアの近藤は2打差を逆転しての栄冠

65歳以上のMシニアには80人（欠場6人）が出場。初日はただ1人のアンダーパー、71をマークした楠元利夫（都城母智丘、66歳）が単独トップに立ち、1打差の72で小宇佐輝久（大博多、66歳）、さらに1打差3位タイに近藤と田辺十郎（チェリー宇土、68歳）の2人。首位と4打差の9位タイまでに10人がひしめく混戦となった。

最終日は14オーバー、55位タイまでの60人が進出。優勝争いは楠元が1バーディー、7ボギー、1ダブルボギーの80と崩れたほか、小宇佐も87と後退。4バーディー、6ボギーでベストスコアの74で回って抜け出したのが近藤で、田辺と初日5位の深谷澄男（佐賀ロイヤル、64歳）が追い上げたが、2打差の2位タイと及ばなかった。楠元はさらに2打差、通算151で4位。前回優勝の上木政章（志摩シーサイド、68歳）は通算11オーバーの9位だった。

## 「シード権狙い」が自身初のタイトル獲得に 逆転優勝に破顔の近藤正耿

最終組。前半の9ホールでトップを行く楠元が41をたたけば、2位の小宇佐が44。優勝争いは混とんとしていたが、いつのまにかすると抜け出してきたという感じだったのが近藤だった。

注目された昨年覇者の上木、その前の年の真鍋高光（大博多、7位タイ）が最終日はいずれも80をたたいて脱落。

強豪ぞろいの九州のミッドシニア界で手にした大きなタイトルに、近藤は表情を崩した。

いわばダークホースだった。「来年の九州のシードが欲しかった。5位以内に入れば」と思っのラウンド。インスタートの11番でボギーが先行したが、その後立て直し、後半に入って2番でバーディーが来て、「ひよっとしたら、頑張ればいけるかな」と欲も出た。「ショットは良かったが、パットが…」とは言うものの、以後を1バーディー、3ボギーとまとめ、トータルでは4バーディー、6ボギーの74とベストスコアをマークし、頂点に上り詰めた。

北九州小倉で建設業を営む。30代半ばでゴルフを始め、各種競技にも出場していたが、九州規模の連盟主催競技での優勝は初めて。九州チャンピオンで出場する日本選手権は、初出場の昨年は首位に3打差の6位タイだけに、今年は期待も膨らむ近藤だ。

